

2-2 広域管理と被害対策に必要なデータ収集とシステムの課題抽出

研究機関名 兵庫県立大学

要約

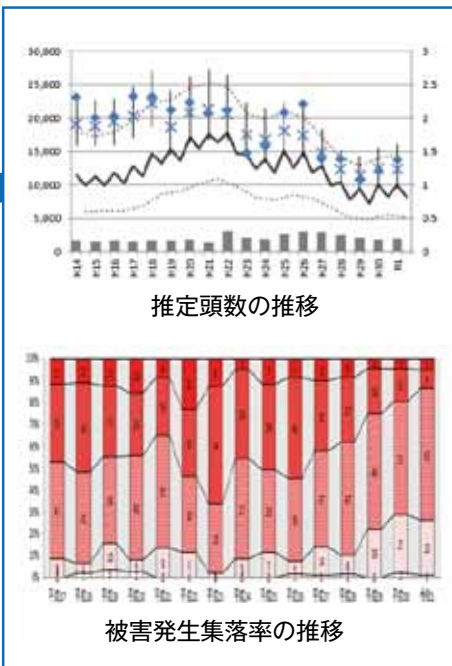
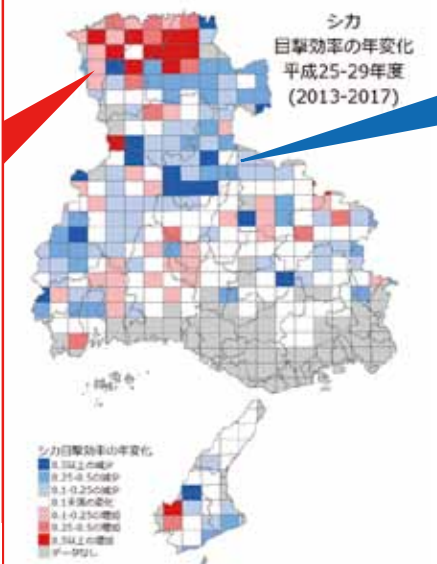
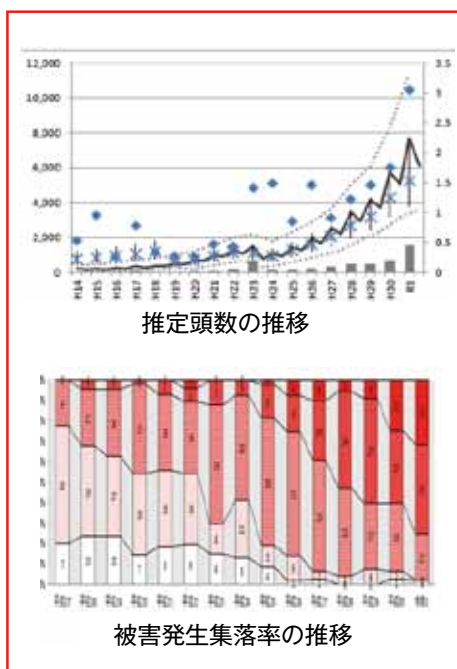
- 出猟報告、集落代表者へのアンケート等から県域の情報を可視化する手法を構築した。
- 集落の実踏調査、インタビューから集落の被害状況等を可視化する手法を構築した。
- 兵庫県では「野生動物管理データ集」や集落支援事業のツールとしてこれらのデータを自治体と共有できる仕組みを構築した。
- これらの情報やデータを2-1で開発するシステムに導入するよう共同でシステムの開発を進めた。



鳥獣害アンケート



出猟カレンダー



マクロな情報の可視化

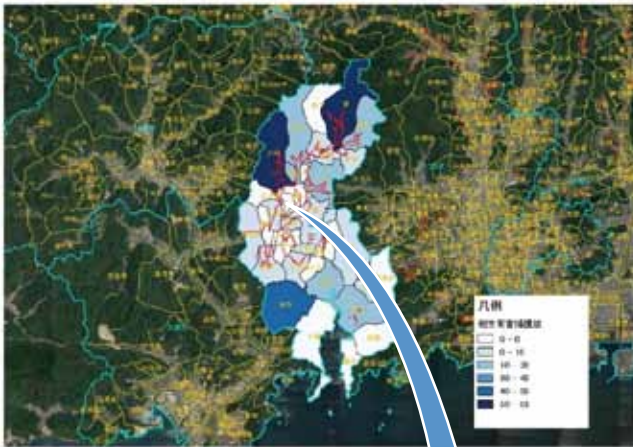
- ・集落の代表者アンケート（鳥獣害アンケート）、出猟カレンダー等の情報により、県域の被害や密度指標等を把握し可視化することが可能
- ・これらの調査項目を2-1で開発するシステムに導入する



集落の被害と防護柵の設置の分布状況



密度の指標（SPUE）と防護柵の設置状況



集落毎の有害捕獲頭数

広域（マクロ）な情報の活用例

- ・ 集落代表者によるアンケートで広域の被害分布を把握する。
- ・ 防護柵の設置ルートを行政資料から可視化する。
- ・ 出猟報告から密度指標（SPUE）を算出し可視化する。
- ・ 有害捕獲データから集落毎の有害捕獲数を可視化する。



被害発生地域に「何が不足しているか」が可視化される。

集落調査（ミクロ）の項目と可視化手法

- ・ 獣害を軽減できる集落を支援するため、被害対策に必要な項目を抽出し可視化の手法を検討した。
- ・ 防護柵の設置ルートと種類、農地単位の被害割合、耕作放棄地、檻・罠の位置と捕獲数、イノシシの掘り返し、ヤブや潜み場等が集落の被害対策を検討するために有用な項目と考えられる。



具体的な被害対策を検討する基礎資料として使用できる。また、対策の効果を可視化し関係者が共有するために使用可能である。



集落調査と可視化

まとめ

- 出猟報告、集落代表者へのアンケート等から県域の情報を可視化する手法を構築した。
- 集落の実踏調査、インタビューから集落の被害状況等を可視化する手法を構築した。
- これらを2-1で開発するシステムに導入するよう共同で開発を進めた。クラウド上で必要な情報を簡便に共有することが可能となる。